

## 行政視察報告

委員会名(会派名)	創成	報告者	岡山 秀義、小林 由明、小林 秋光、稲村 隆行
視察日程	令和7年10月20日～10月22日		
調査事項 及び 視察地	1 持続可能な都市の実現に向けた弥彦線LRT化検討レポート ～コンパクトシティ戦略と公共交通の役割に着目して～		
	2 富山市まちなか総合ケアセンター視察レポート ～公民連携の医療・福祉・子育てを一体化した複合拠点の先進事例を調査～		
	3 高岡市ものづくりデザイン科推進事業視察レポート ～伝統産業・地域資源を活かした独自の教育プログラムを調査～		
	4 射水市 大島絵本館 ～専門性の高い文化施設の運営体制、機能および地域振興への貢献度を調査～		
参加議員 (委員)	岡山 秀義、小林 由明、齋藤 信行、大島 靖浩、小林 秋光、高橋 妙子、齋藤 和也、稲村 隆行		
1	<p><b>【調査目的・内容】</b></p> <p><b>1. 目的</b> 本レポートは、日本各地が直面する「人口減少」と「都市インフラの老朽化・更新・抑制」という課題に対し、富山市の事例を参考に、弥彦線(燕三条駅～弥彦駅間、営業距離約13キロ)の<b>LRT (Light Rail Transit)</b>化の検討可能性を探り、「持続可能都市の実現」に向けた具体的な提言を行うことを目的とする。</p> <p><b>2. 視察で得られた知見と考察</b> 富山市は、地方都市における課題解決のモデルとして、公共交通を軸としたコンパクトシティの実現を推進してきた。特に、旧富山港線(約7.6キロ)を転換した<b>LRT</b>(富山ライトレール、現:富山地方鉄道)の成功は、地方鉄道路線の再生と都市再生の相乗効果を示す好例である。</p> <p><b>(1) 富山港線のLRT化の経緯と成功の背景</b> 旧富山港線は、JR西日本によって廃止の方針が示され、まさに「廃線危機」に瀕していた。利用者の減少や、多くの踏切を抱えることによる安全性・都市交通への影響が課題となっていた。富山市は、この路線の廃止を回避し、かつ都市再生に活用するため、単なる鉄道維持ではなく、<b>LRT</b>への転換を選択した。</p> <p><b>LRT化の主要な経緯と特徴:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公設民営方式: 富山市が線路などの施設を保有し、第三セクターの富山ライトレールが運行を担う「上下分離方式」を採用。これにより、自治体がインフラを管理し、安定した運行環境を確保した。</li> <li>・路面電車化と都心乗り入れ: 低床型車両(<b>LRV</b>)を導入し、都市の玄関口である<b>JR富山駅</b>をまたいで都心部に乗り入れる新設区間を整備。これにより、都心部と郊外が直結し、利便性が飛躍的に向上した。</li> <li>・都市計画との連携: 居住誘導区域や商業機能の集積と密接に連携させ、公共交通を「使う必然性」を創出した。</li> </ul> <p>この転換は、単なる交通事業の存続ではなく、都市構造を変革し、「都市のコンパクト化」を推進する公共投資として位置づけられた点で成功を収めている。</p>		

## (2) 都市のコンパクト化とインフラ抑制

人口減少下において、広範囲に分散した居住域を維持することは、既存の「都市インフラの老朽化・更新」費用を増大させ、財政的な持続可能性を損なう。富山市は、公共交通沿線への居住を誘導する「都市のコンパクト化」により、インフラ更新コストの「抑制」を図った。これは、高効率な都市経営を実現するための必須戦略である。

## (3) 公共交通の役割と高齢者の健康増進・医療費削減効果

富山LRTは「高齢者利用が多い」ことが特筆される。LRTは、低床車両と定時性、そして比較的運行頻度の高い運行により、自家用車に依存できない高齢者層に対し、高い「利便性快適性安全性の高い都市」生活を提供する。これにより、日常的な移動が確保され、外出機会が増加することで「健康増進」に繋がり、結果として高齢者の医療費削減にも寄与する。さらに社会参加が促進され、「住民幸福度」の向上に貢献する。

## (4) 居住地の集積、税収増、および社会動態の改善

LRTの導入は、沿線地域を魅力的な「居住地選択」肢として再定義した。富山市では、この政策の結果、中心市街地や公共交通沿線に住民が回帰する「集住成果」が見られ、人口密度向上に繋がっている。

この集住の進展は、以下の複合的な効果を生んだ。

- ・**経済効果:** 居住地の集積は「空地空き家空き店舗対策」と連動し、中心市街地の活性化を促すとともに、利便性の高い土地の資産価値を高め、固定資産税収増という形で自治体財政に貢献する。
- ・**社会動態の改善:** 郊外への無秩序な拡散を抑制するとともに、都心と主要拠点を直結するLRTは、都市内部の利便性・魅力を高める。これにより、広域都市圏への住民や消費の流出を抑制し、地域経済を周辺の広域都市圏に吸い取られる「ストロー現象対策」としても機能する。都市の魅力と利便性の向上は、特に若年層の転出超過を抑制し、地域を安定させる「社会動態の改善」にも貢献している。

## 3. 弥彦線LRT化への提言と考察

富山市の成功事例は、弥彦線(燕三条駅～弥彦駅間)区間における持続可能な都市づくりのための重要な示唆を与える。

### (1) 弥彦線区間の特性とLRTの適合性

弥彦線区間(約13キロ)は、富山港線(約7.6キロ)と比較して営業距離が長いものの、燕市・三条市の中心部と観光地である弥彦村を結ぶという明確な役割を持つ。この区間をLRT化することで、以下のような効果が期待できる。

- ・**居住誘導:** 燕三条駅周辺の商業・業務機能、および既存の中心市街地周辺において、LRT沿線を軸とした高密度な居住を誘導し、効率的な土地利用を促進する。
- ・**地域連携:** 観光客や広域利用者を含む多様な利用者呼び込み、燕三条駅をハブとした地域間の連携を強化する。
- ・**高齢者・子育て世代の支援:** 自家用車を持たない、または運転が困難な層に、安定した移動手段を提供し、地域で安心して暮らせる環境を整備する。

**(2) LRT化実現に向けた検討項目**

- ・事業スキームの確立: 転換費用、運行コスト、および公的支援のあり方。
- ・都市計画との連動: 沿線自治体が一体となり、**LRT**運行開始を見据えた都市計画(居住誘導区域の設定、用途地域の見直しなど)を策定する。
- ・フィーダー交通の整備: **LRT**駅から周辺地域への二次交通(バス、コミュニティサイクルなど)を確保し、サービスエリアを拡大する。

弥彦線区間の**LRT**化は、単なる交通手段の転換ではなく、地方都市の持続可能性を高め、「都市のコンパクト化と公共交通」を核とした未来志向のまちづくりを実現するための重要な投資となる。



[https://www.city.toyama.lg.jp/\\_res/projects/default\\_project/page/001/006/372/chousanamboku.pdf](https://www.city.toyama.lg.jp/_res/projects/default_project/page/001/006/372/chousanamboku.pdf)

- 富山市中心市街地の「コンパクト化」に関する意識調査



[https://tohokatsu.city.toyama.lg.jp/wp-content/uploads/2025/06/research\\_report\\_20250318\\_2.pdf](https://tohokatsu.city.toyama.lg.jp/wp-content/uploads/2025/06/research_report_20250318_2.pdf)

- 令和6年度 都市の魅力とコンパクトシティのあり方に関する調査研究報告書



<https://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/content/000097728.pdf>

- 資料3-3 富山型コンパクトシティの取組



<https://www.city.toyama.lg.jp/shisei/machizukuri/1015125/1006102.html>

- 富山型コンパクトシティの推進



[http://www3.u-toyama.ac.jp/mnakamur/pdf/compact\\_report2021.pdf](http://www3.u-toyama.ac.jp/mnakamur/pdf/compact_report2021.pdf)

- 富山型コンパクトシティの進化に関する調査報告書(2021年版)



[http://hokuga.hgu.jp/dspace/bitstream/123456789/4380/1/%e9%96%8b%e7%99%ba%e8%ab%96%e9%9b%86%e7%ac%ac109%e5%8f%b7\\_p183-191\\_%e6%b5%85%e5%a6%bb%e8%a3%95%e5%85%88%e7%94%9f.pdf](http://hokuga.hgu.jp/dspace/bitstream/123456789/4380/1/%e9%96%8b%e7%99%ba%e8%ab%96%e9%9b%86%e7%ac%ac109%e5%8f%b7_p183-191_%e6%b5%85%e5%a6%bb%e8%a3%95%e5%85%88%e7%94%9f.pdf)

- 富山型コンパクトシティとまちなか居住の現状と課題(開発論集第109号)



[https://www.jttri.or.jp/survey/zisseki/archives\\_event/100929seminar/pdf/semi\\_04.pdf](https://www.jttri.or.jp/survey/zisseki/archives_event/100929seminar/pdf/semi_04.pdf)

- 資料4 富山型コンパクトシティの取組みについて



<https://www.jttri.or.jp/members/journal/assets/no36-03.pdf>

- 富山型コンパクトシティへの評価と今後の展開(運輸と経済 2017年7月号)



[https://www.city.toyama.lg.jp/\\_res/projects/default\\_project/page/001/006/313/08siryo\\_u3-3.pdf](https://www.city.toyama.lg.jp/_res/projects/default_project/page/001/006/313/08siryo_u3-3.pdf)

- 資料3-3 富山市におけるコンパクトなまちづくりについて



[https://www.jstage.jst.go.jp/article/iatsreview/44/3/44\\_205/pdf-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/iatsreview/44/3/44_205/pdf-char/ja)

- 富山型コンパクトシティの形成プロセスと評価～富山市におけるコンパクトなまちづくり政策を事例に～(交通工学 44巻3号)

**【所感】**

富山市の事例が示すように、**LRT**を核とした都市のコンパクト化は、人口減少社会におけるインフラコストの抑制、沿線への集住による固定資産税収増と社会動態の改善、高齢者の健康増進に伴う医療費削減、そして住民幸福度の向上といった多岐にわたる課題を同時に解決する有効な戦略である。弥彦線の**LRT**化は、燕・三条地域が「利便性快適性安全性の高い都市」として持続的に発展するための鍵となる施策であり、早期の本格検討を提言する。

**【調査目的・内容】**

## 1. 背景・目的

2017年(平成29年)4月に開業した富山市まちなか総合ケアセンターは、出産・子育て期から高齢期までを切れ目なく支える支援機能を一体化し、住民が安心して健やかに生活できるまちづくりを推進する目的で整備された公民連携型の地域包括ケア拠点である。当時の富山市では、中心市街地の人口減少と郊外化が進むいわゆるドーナツ化現象が課題となっていた。その解消に向けて、子育て・教育・医療・福祉・健康といった生活機能を中心市街地に集積させることで、中心部への居住と回帰を促すことを狙いとし、当時の市長の主導により進められた。開業時には全国的にも先進的な取り組みとして注目され、現在でも、都市型の地域包括ケアのモデルとして、多くの自治体が視察に訪れている。

## 2. 取り組み内容

## ① 子育て支援

## ・産後ケア(宿泊/デイケア)

助産師15人体制で、産後の母親の心身ケア、授乳指導、育児相談、休息支援を実施。自治体直営の産後ケア拠点であり、全国的にも先行して実施された。

## ・妊娠期相談・産前教室

上記に加え、妊娠期の健康相談、出産準備講座を行っており、出産への不安軽減、家庭だけで孤立しないよう支援している。

## ・病児保育

2 看護師4人体制で、体調不良の子どもの一時的預かりを行っている。保護者が仕事の都合で体調不良のお子さんを保育所に迎えにいけない場合は、代わりに迎えにいった保育看護するサービスを実施しており、保護者を支援している。

## ・こども発達支援・相談

保健師・臨床心理士による相談。発達の遅れが心配される子どもに対し、早期に相談にのり支援している。

## ② 在宅医療の推進

## ・まちなか診療所(在宅医療支援)

医師3人、看護師3人、社会福祉士1人体制で、自宅に訪問し診療を行っている。要介護3以上の方を対象とし、365日24時間、通院困難な方に医療を提供している。

## ③ 地域コミュニティの醸成

## ・地域住民と連携したイベント開催、

子育て世代交流イベント、高齢者の通いの場・健康づくり教室などの事業をボランティアや市民とともに実施している。

## ・官民連携事業

民間企業と協力し、施設内の交流スペースを活用して、体験・交流・発表・物販などの事業を実施している。

**【所感】**

富山市まちなか総合ケアセンターは、子育て支援から在宅医療、高齢者支援までを一体的に提供し、利用者にとって利便性が高く、喜ばれる支援拠点として機能していると感じた。また、人が集まり交流が生まれる居場所としての役割も担っており、地域コミュニティの再生にも寄与していた点が印象的だった。本市においても、官民連携や既存施設の再編を含め、支援機能を分散するのではなく、集約するという視点は、今後のまちづくりを進めるうえで参考事例となると考える。

**【調査目的・内容】**

本視察は、富山県高岡市が推進する「ものづくりデザイン科推進事業」について、その目的、教育内容、地域産業との連携体制、成果および課題を把握し、本市における人材育成政策・産業振興政策の参考とすることを目的としました。

高岡市は、銅器・漆器などの伝統産業を基盤とした「ものづくりのまち」として発展してきた都市であり、これらの地域資源を活かした独自の教育プログラムを展開している。燕市と比較して参考とさせていただきます。

**【所感】**

今回の視察は、高岡市が実施している独自教科「ものづくりデザイン科」の取り組みを調査し、ものづくりのまちである燕市における教育政策や産業人材育成の参考とすることを目的として行ったものであります。高岡市は、銅器や漆器などの伝統工芸が発展してきた地域であり、こうした地域産業を教育の中に取り入れた独自の教育プログラムを展開しています。この「ものづくりデザイン科」は、市内の小中学校において実施されている高岡市独自の教科であり、地域の伝統工芸や産業を題材として、子どもたちの創造力や課題解決能力を育成することを目的としています。授業では、地域の職人や企業と連携しながら、ものづくりの体験だけでなく、「誰のために作るのか」「どのように価値を生み出すのか」といった視点を取り入れたデザイン思考型の学習が行われている点が特徴です。また、小学校から中学校まで継続して学ぶことができるよう、教育委員会が主体となり体系的なカリキュラムが構築されている点も大きな特徴であります。この取り組みにより、子どもたちが地域の産業や文化に対する理解を深めるとともに、地域への誇りや愛着を育む教育効果が期待されているとの説明を受けました。一方で、燕市について見てみますと、燕市は金属加工を中心とした世界的なものづくり産地であり、極めて高い技術力と企業集積を有している点が大きな強みであります。学校教育においても工場見学や体験学習などは実施されておりますが、現状では単発的な事業が中心であり、高岡市のように教科として体系的に位置付けられているものではありません。この点において、高岡市は「教育を起点として産業理解を深めるモデル」であるのに対し、燕市は「産業を起点として教育と接続しているモデル」であると言えます。つまり、燕市は実際の産業基盤が非常に強い一方で、それを体系的な教育カリキュラムとして整理する余地があると感じました。

今回の視察を踏まえ、燕市においても今後、地域産業を活かした教育のあり方について検討を進めることが重要であると考えます。例えば、小中学校を通じて継続的に学ぶことができる「ものづくり探究型学習」の導入や、地元企業との連携をさらに深めた教育プログラムの構築などが考えられます。燕市は世界的なものづくり産地であり、この強みを教育と結びつけることで、将来の地域産業を担う人材の育成や、地域への愛着の醸成にもつながるものと考えます。

**【調査目的・内容】****●大島絵本館の施設及び運営概要**

大島絵本館は、国内外の絵本1万冊以上を所蔵する専門の絵本館であり、図書館機能、展示機能、発表機能、及び体験学習機能を複合的に有する文化・交流拠点である。

**(1) 主要機能の構成**

## 施設名 機能・特徴

絵本がいっぱい ライブラリー 国内外の絵本をテーマ・国別に分類(1万冊以上)。子供の関心を引くキッズコーナーを併設。専門性の高いコレクションを核とする。

ギャラリー／カフェギャラリー 絵本原画展(2ヶ月ごと入れ替え)を実施し、芸術を身近に提供。カフェ機能との融合により、滞在時間の延長と交流促進を図る。

絵本シアター 大型スクリーン(W20m×H8m)と176席を備える本格的な多目的シアター。コンサート、映画、絵本の立体投影等、多様な文化活動に対応。

パフォーマンスホール シアターの約1/3規模の舞台を備えたホール。講演会、発表会、練習など、市民の柔軟な活動の場として提供。

**(2) 事業・収益モデルの特徴**

1. ワークショップの多様性: 通常の絵本づくりに加え、パソコンを使用したバッジ・キーホルダー等のオリジナルグッズ制作(CGワークショップ)を提供し、教育と創作活動を推進。

2. 団体利用の促進: ワークショップと施設見学を組み合わせたコース設定(例:2時間)を設け、広域からの修学旅行や団体の誘致を図っている。

3. アウトリーチ活動の収益化: 絵本づくりや読み聞かせの指導を有料(5,000円/時間)で実施する出張講座を設け、地域貢献と同時に新たな収益源を確保。

4

**【所感】**

大島絵本館は、専門的な「絵本」を軸に、質の高い文化体験と教育の場を複合的に提供し、集客力と地域貢献度を高めている。本市における今後の子育て支援及び文化振興施策に対し、以下の示唆を得た。

**(1) 専門テーマと本格的な発表の場の統合**

本市の既存の子育て支援施設や体験施設に対し、大島絵本館の「絵本」と同様に、本市の特性である「燕のモノづくり」などに焦点を当てた専門性の高いテーマを導入すべきである。さらに、集客と質の高い活動を可能にする本格的な展示(ギャラリー)機能と発表の場(シアター)の統合を検討し、複合的な文化交流拠点化を推進する必要があると感じた。

**(2) 有料プログラムによる収益多様化と教育効果の向上**

有料のCGワークショップや出張講座のモデルは、運営安定化に大きく寄与する。特にCGワークショップは、地場産業と関連するデザイン・デジタル技術教育として本市の子どもの学習機会拡大に有効であり、導入を検討すべきである。

**(3) 滞在型施設への転換**

飲食やアート鑑賞が可能なカフェギャラリーの設置は、来館者の滞在時間を延ばし、交流を深める上で効果的である。今後整備する全天候型子ども遊戯施設等においても、利用者が長時間快適に過ごせる「質の高い休憩・交流スペース」を計画的に導入し、施設全体の魅力を高めるべきでは無いかと感じた。

【視察の様子】

1. LRT(富山ライトレール)



2. 富山市まちなか総合ケアセンター



3. 高岡市ものづくりデザイン科推進事業視察



4. 大島絵本館

